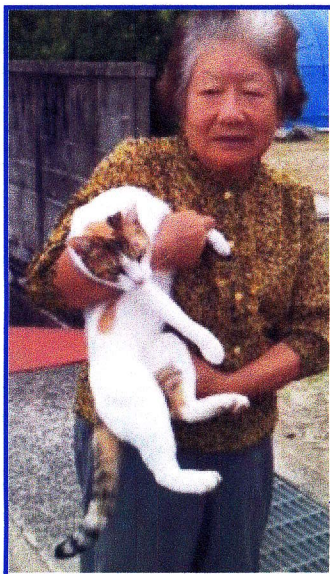




10月26日、出ました、ウインドウズ8。それで、買いました。ウインドウズ7。買い替え後に「まる新聞」作っても10月中には発行できるよね、と高をくっつけていたら、ああ、もう31日(苦笑)。

そういうときにぴったりな31日付コラムといえば、「10月の言葉から」。文化はこうしてできるのだ、と実感した言葉を集めました。

凡婦に喝を入れる「10月の言葉」



麗子さんは、うちの婆ちゃんによく似ちよる

9月、コメの収穫が終了。市内に住む中山龍夫さんが今年は面倒をみてくださったのでした。中山さんとは今年2月までお互いに全く知らない同士でしたが、母・麗子の気持ちに沿い、「苦勞しちやった人よ」と思いやってくださいました。感謝に堪えません。

地域でのやり方も忠実に踏襲してくださり、母の信頼をつかみとりました。

10月26日、打ち上げの宴。いい顔をして母は笑いました。



④婆との初ツーショットに誇り高きみけこも降参⑤まるこの10月の言葉は「ごろごろ」

「政策立案に女性を加えたいなら、女性審議委員を増やすより、市幹部に女性を登用すべきだ」

発言した私と市部長の煮えきらぬやりとりを受け、女性団体連絡協議会の会長がこう語りました。「将来の管理職を私たちが育てていきましょう」

彼女らが、馬耳東風の市に業を煮やしてきたことは、既に察していました。無念を味わってきた苦汁と、無念につぶされまいとする強靱な矜持。がーんとききました。

原発はいやでしょ。「アカ」とか言われるかもしれないけど、そんなことはどうでもいい

来春、周南公演する芝居の実行委員会に加わりました。青年劇場の「臨界幻想2011」。30年前にフクシマの原発禍を予見していた舞台の再演です。

24日は、実行委員長の池田真由美さんに連れられて後援依頼の放送局巡りです。

池田さんは、元ラジオ放送ディレ

クター。「社会派ではなかったですよ。音楽のチャート番組とか作ってました。フラメンコがしくて勤めはやめたんです」。はきはき喋り、気持ちよさげに笑います。鎌仲ひとみ監督の映画「内部被ばくを生き抜く」の自主上映を機に活動団体を立ち上げたそうです。動機は単純「原発はいやでしょ」。

芝居のなかに「(電力会社から)金をもらったなら、言いたいことも言えなくなる」という台詞があります。池田さんも、いやなことはいやと言いたい、という意味がベースになっているようです。それはまた、「自分たちの問題は自分たちで解決するんだ」という1960年代アフリカ諸国の独立への叫びとも通じているように思えます。

自立する者に祝福あれ。

今の私が好き

目がきらきら輝く寿柳裕子さんの言葉です。脳梗塞で失語症になり13年。今はかなり回復して、五行歌という自由詩の歌人として活躍しています。講演録が掲載されている熊本保健科学大学ブックレット「言葉を生きる」を頂戴しました。「言葉を失ったからこそ、幸せになる素を何か見つけていたのかも」と言います。

「誇りをもって生きられるか」は、私と母にとって永遠の課題です。寿柳さんは、私の目標を实践している人なのでした。

評価はレポートでします。差別的な考えが残っていたら、落第です

10月から山口県立大で「アフリカ社会・文化論」を聴講しています。講師は、国際文化学部の安溪遊地(あんけい・ゆうじ)教授。この言葉は、初回授業の、単位の評価説明です。

講義の目的は、アフリカへの偏見をなくし、人々の魅力と苦境を知ること。我々にできることを問うこと。

私語が反響する教室を静かにさせ授業の開始を告げるのは、講師の胸にかかった土笛。地域の人々が「学生に見せようと思って」持ってきたサツマイモは、意見発表した者にプレゼント。ルワンダに行った学生の報告。歴史を語る海外ドキュメンタリーのDVD。授業を締めくくる「今日のスワヒリ語」は講師の実体験に基づいた一言。面白いです。ブログもあります。

職員は私たちが育てるんです

防府市男女共同参画審議会の委員を昨春から務めています。今年度開催は10月16日が初めて。今年度の事業計画を半年も過ぎて説明する市に鼻白みます。